



安積山

郡山市立日和田小学校
学校便り No.10
令和4年5月6日
文責：校長 伊藤孝行

なかなかペースがつかめません。

三連休があって一日登校、また三連休後の一日登校、そして、また土日の休みです。

おとなでも普段のペースと違い、なんとなく疲れている感じがみられます。2日は元気だった子どもたちも今朝はやや足取りが重いように感じました。



来週9日(月)からは、一週間フルに授業が入っています。

この週末は、規則正しい生活を送りながら休養も十分にとって、頑張れる心と体にして週明けを迎えましょう。

通級指導教室の先生を紹介します。

今年度より、通級指導教室を新設することとなりました。ただし、今年度は、巡回型の通級指導教室です。担当なさる先生は行健小学校に在籍されている鮎澤亨先生です。

鮎澤先生は、水曜日と木曜日の2日間日和田小学校にいらして指導をされます。長く特別支援学校に勤務され、専門的な知識が豊富で優れた指導力をもたれています。

5月の第二日曜5月8日(日)は母の日です。



母の日は、アメリカ人のアンナ・ジャービスさんが自分のお母さんの死後、その墓に白いカーネーションを飾ったことが始まりです。

カーネーションは母親の愛のシンボルとされ、日本では1949(昭和24)年に初めて行われました。

母親へ感謝を表す日は世界中にあり、その日付は各国で異なります。

5月第1日曜日：スペイン、ポルトガル

5月第2日曜日：アメリカ、カナダ、ブラジル

5月最終日曜日：スウェーデン、フランス

11月最終日曜日：ロシア

民話に親しんでみてはいかがでしょうか。



〈二本松市安達ヶ原観世寺の黒塚〉

民話や昔話は「昔、昔、あるところに・・・」に始まるものがほとんどです。しかし、場所も時代もある程度わかっているものもあります。

その一つは、福島県二本松市に伝わる「安達ヶ原の鬼婆」で、この物語の設定は以下の通りです。

- ・年代：神龜丙寅の年(726年)
- ・場所：安達ヶ原(現在の二本松市安達町)
- ・登場人物：紀州の僧・東光坊祐慶、老婆(安達ヶ原の鬼婆=岩手)

・あらすじ

都で病身の姫に仕える乳母(岩手)が、妊婦の生き肝を飲ませれば姫が治るといふ易者の言葉を信じ、それを求めて安達ヶ原の岩屋に住み着いた。

年月が過ぎ乳母は老婆となった。ある日、夫婦が岩屋に一夜の宿を求め、身重の妻が産気づいた。夫の不在時に老婆は妻の生き肝を取った。しかし、その妻は生き別れた娘と知り、自分のしたことに苦しみ鬼婆となった。鬼婆はその後、旅人を殺し続け、数年後、熊野の僧東光坊祐慶により観音像の力で退治された。鬼婆は、観音像の導きにより成仏した。祐慶は塚を造って鬼婆を弔い、その地は「黒塚」と呼ばれるようになった。

悲しい物語ですが身近にありますので、足を延ばしてみてもいいのではないでしょうか。